

生徒指導上の課題（健康問題・精神疾患等）

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 岡田 俊

1. 思春期・青年期は精神疾患の好発年齢

統合失調症：思春期から非特異的な認知機能低下、社交性低下などの行動変化

うつ病、双極症：非特異的（焦燥・不機嫌）、急速な気分変動、自殺企図

不安症群：不安発作、過呼吸、解離・転換症状、強迫症状

摂食障害：やせ礼賛の風潮、思春期以前にも発症、発達障害特性との関連

トラウマ関連障害：虐待、いじめ、暴力・暴行、性被害

依存症：物質依存、インターネット・ゲーム障害

2. 精神疾患の兆候への気づきに関する学校の役割は大きい

表情・活動性、行動様式の変化（自傷、いらだちなど）、仲間関係、体重、出席状況、成績低下など

・・・担任だけでなく養護教諭、スクールカウンセラーとの連携

行動変化を質したりせず、その背景にある心理的状况に着目

いきなり精神面にはではなくとも身体・行動面からアプローチして見守る

3. 家庭との連携が求められるが、家庭の状況は様々

日常的な家族状況の把握と連携（マルトリートメント、ヤングケアラーなど）

幼稚園から小学校、小学校から中学校、中学校から高校への情報伝達

学年間の引き継ぎの徹底

問題認知後の家族へのアクセスでは信頼関係の喪失

家族には言わないでほしい←→自傷、切迫した自傷などの安全上の問題

家庭内のケアの低さ、複雑な家庭状況が子どもの情緒面の問題に影響して

いることが多数

解決は容易ではなくそうならざるを得ない家庭状況（子ども側の要因も）

子どもを助けたいという思いのあまり家庭内に無神経に踏み込むことも

4. 校内連携の重要性

担任を孤立させない：感情的対応や抱え込み、自責、メンタルヘルス不調

チームとしての対応（学年主任、養護教諭、スクールカウンセラー、スクイール

ルソーシャルワーカー、管理職）

5. 医療との連携の重要性

いくつかの障壁

・家族の重大性の認識とのずれ、家族の行動力の乏しさ

- ・児童思春期専門医療の供給不足、大きな域格差
- ・受診誘導のノウハウの不足・・・児童生徒、家族の心配事を出発点に

受診に至らなくても教育における支援は可能

教育・医療の連携の円滑さの欠如

- ・医療側の教育への先入観（単純な「登校刺激をしない」）、理解の不足
- ・医療受診後も委ねきるのではなく教育的役割が持続することを意識
- ・特別支援学校を除き、精神科学校医が存在しないことは重大な欠陥

6. 子どもの自殺

中高生の死にたいと思うことがある割合の推移（日本学校保健会）

平成 30 年 男子 中学生 7.5% 高校生 6.5%

女子 中学生 12.3% 高校生 11.2%

自殺した児童・生徒の学識別状況（令和元年、警察庁）

小学校 8、中学生 112、高校生 279、大学生 390、専修学校 99

自殺した児童・生徒の学識別状況（令和元年、文科省）

小学校 4、中学生 91、高校生 222

自殺の原因

学業不振、進路に関する悩み、うつ病、その他の精神疾患、親子の不和、
学校問題、失恋、家族からのしつけ・叱責、学友との不和

児童・生徒の自殺からみえるもの

- ・自死への閾値の低さ：家族や友人とのトラブル後に衝動的な自殺も
- ・助けを求めるサイン→うまくキャッチされない→絶望
- ・SNSでのいじめ、自死を無責任にあおる風潮
- ・背景にうつ病などの精神疾患があることが多い一方、背景は複合的で
医療だけで解決できない
- ・学校で受け止めること、道徳教育、疾患啓発の重要性

7. 学校におけるメンタルヘルス教育

誰もがかかりうる疾患であり、適切なケアが大切であること

初期兆候に対する基本的な理解、スティグマの払拭

高等学校の保健体育でメンタルヘルス教育が開始される

家族、近親者、同級生の精神疾患への理解と対応

外傷的な記憶、罪悪感にさいなまれていることも

適切な心理教育といたわり

回復モデルを示す

環境調整や休息、医療的ケアやカウンセリング

理解者、仲間の必要性

仲間には自助も含まれる（例：物質依存、「だめ、絶対」からの脱却）

8. COVID-19 感染拡大下の児童生徒のメンタルヘルス

文献ベースでの報告

不安症状・抑うつ症状、自殺念慮・自殺企図の増加

強迫症状の増悪、外傷性ストレス反応、神経性やせ症の発症、

睡眠衛生、インターネット・ゲーム依存の悪化

特に、変化への適応が困難な神経発達症の児童生徒の内在化症状、外在化

症状、生活の質の悪化、養育者ストレスの増加が報告されている

オンライン教育の普及、ICT 機器の導入→教育の機会を広げる一方、

家庭に教育を持ち込むことになり、家族間の衝突が激化

子どもたちの姿が見えない、家庭訪問なども実施されない＝キャッチ不足

→狭義の教育ツールの提供だけではない学校の役割が再認識されるべき